

令和6年度 第2回地域ケア推進会議まとめ(1)

「これまでの取り組みの報告等より」

	助言・提言
転倒・骨折予防 ・新すこやかプログラム	・一般介護予防事業等の結果をデータ等の目に見える形で示し評価をすることが参加者の励みになる。また、今後評価結果を広報などいろいろなところで周知することで、参加への意欲につながる。
転倒骨折予防 ・自宅内の環境整備	・転倒骨折予防について、要支援・要介護の方を介護されている方向けの支援は個別性が強くなっていく。相談会のような形の方がよいかもしれない。 ・転倒が起こる前の話であれば、包括かわら版等で継続して周知し、「まだ自分は高齢者ではない」ではなく、「何歳以上になったら気を付けましょう」というように、自分ごととして思ってもらうための見せ方も大切である。 ・地域の老人会などで包括かわら版を周知したり、順番に老人会を回って講座を行うのもよい。

令和6年度 第2回地域ケア推進会議まとめ(2)

「多職種連携会議・地域ケア個別会議から把握した課題」

課題	めざす姿	助言・提言
・活動の場に参加するための興味・関心・意欲を引き出す支援	・高齢者が自身の興味・関心のある場に意欲的に参加できる。	・元気なうちから情報をとらえて声をかけていくことが必要。興味関心チェックシートを元にアンケートを作成し、地区の高齢者に実施し、同じ趣味を持つ人が集まる場を作り、友達を増やす機会や出会う機会にできるとよい。 ・過去に自分が繋がっていたものや、興味関心のあったものであればあらためてやるときに抵抗がない。 ・男性は最初からみんなで議論しながらものを作っていく作業があると出かけやすい。企画から取り組みまで行くとずっと参加をしてくれるのではと思う。 ・施設だけでなくいろいろな場所で活動ができるとよい。 ・支え手側に回るような仕組みの活動を作ると意欲を持って継続できる。

令和6年度 第2回地域ケア推進会議まとめ(3)

「多職種連携会議・地域ケア個別会議から把握した課題」

課題	めざす姿	助言・提言
同居者の負担が大きい	・家族負担の軽減	・初動で専門職が入り、支援を行っていく。個別会議で高齢者分野だけでなく、障害者分野や地域を巻き込み、できれば当事者や介護者も入った会議が必要。
地域から孤立してしまう	・地域活動に参加しやすい環境づくり ・活動の場の拡大	・コミュニティでサポートできる体制があるとよい。 ・精神や障害、認知症に対する理解が、高齢者の介護が大変だとわかるのと同じように、障害の理解も広げていくことが大切である。